

巻頭言

女性薬剤師の支援を続けて

埼玉県女性薬剤師会 会長 渡邊 美知子



春ですね。昨年、薬剤師が11,488名誕生しました。男女比は特に出していませんでしたが、日本の薬剤師の統計情報からみると、3:7ですからおそらく同様に女性が多いと思われます。

国の男女平等参画事業の推進における女性の活躍は、目覚ましいものがありますが、実際子育てをするために薬剤師の仕事から離れなければならないことが、まだまだあるように見受けられます。

しかし、日本の医療現場は日々変化しています。毎年のように新薬が登場し、ジェネリック医薬品も増え、さらに一般名での処方が多くなりました。2年に1度の診療報酬改定に伴い「健康サポート機能」が薬局に求められていることも知っていなければなりません。薬局は「医療提供施設」ですが、一方でOTC販売として小売業の側面があります。今まで調剤に特化していた結果「相談薬局」という本来の姿が失われつつありました。これからは女性薬剤師のきめ細やかな力を発揮する良い機会だと考えています。そのためにも身近な学習の場を提供し支援していきたいと思えます。

さて、埼玉県女性薬剤師会は昭和29年に埼玉県薬業婦人会として、今の前身が誕生。13回の総会の後、昭和44年に埼玉県女子薬剤師会が正式に発足しました。昭和53年に顧問に就任した、所沢出身の石井道子氏はその後、参議院議員に当選、1996年(平成8年)に入閣し、環境庁長官に抜擢され、私たち女性薬剤師に多大な希望をもたらしました。歴代の会長はじめ、各市支部の理事、県庁職員の女性薬剤師も会の運営と継続に力を注いで下さいました。発足当初の支部がなくなるなどして会員数は減少していますが、今年2017年7月に第49回総会を迎える運びとなりました。

各県の女性薬剤師会は、一般社団法人日本女性薬剤師会の社員という位置づけになっています。

母体の(一社)日本女性薬剤師会はCPC(薬剤師認定制度認証機構)でG16を取得しており、特に8疾患を網羅している薬剤師継続学習通信教育講座は、平成28年度、1,900名以上の受講者があり、それに伴い埼玉県女性薬剤師会では、年2回のスクーリングを開催しております。又、全国各地で開催される移動セミナーや地域ごとに開催される研修会は私たち女性薬剤師の交流の場にもなっています。

今年、埼玉県女性薬剤師会は(一社)日本女性薬剤師会関東ブロック大会の当番県にあたっており、6年前と同じ川口駅前ホールフレンディアで10月22日に、関東6県の代表として研修会を開催致します。たくさんの方々のお越しをお待ちしています。又、埼玉県女性薬剤師会主催の年2回のフィジカルアセスメント講習会は、在宅に向けて薬剤師が身に付けておきたい手技や、アセスメントからみえる薬剤の効果などの学習を開催し好評です。今後は埼玉県内の市民講座の開催を視野に入れて、県薬の皆様と一緒に取り組みたいと考えていますが、いかがでしょうか?

この2年間、埼玉県薬剤師会の理事をさせていただき、役員の皆様、事務局の皆様の仕事量の多さに驚かされました。この支えがあり薬剤師会が運営されています。又、会議に女性の理事も以前より増え良い傾向と思います。今後は栄養士協会を巻き込むことも考えていけたら、現場で役立つのではないのでしょうか。

最後になりますが、今年度も埼玉県薬剤師会の理事として微力ながら、地域薬剤師に還元できる活動をしてまいりたいと思います。

今回このような機会をいただき心より感謝申し上げます。